

議長記者会見（第37回）会見録

日時：令和2年10月2日（金）

午後2時から

場所：石川県議会議事堂

議長応接室



会見を行う稲村議長（右）と善田副議長（左）

ご苦労様です。

私と善田さんが正副議長になって、2回目の議会を今日、無事終えることができました。

まず冒頭に、我々の大先輩であります金原先生が、9月30日にご逝去されたと聞き大変驚きました。私も第1回目の選挙で県議会議員になって以来、40年近くご指導を仰いで来た者として非常に残念に思っております。心からご冥福をお祈りしたいと思います。

本県で新型コロナウイルスによる感染が確認されてから、もう半年以上になるわけでございます。今議会も皆さんのご承知のとおり、新型コロナウイルスに終始した議会であつただろうと思います。新型コロナウイルスに感染しお亡くなりになられた方々のご冥福

を心からお祈りするとともに、現在も感染症でご苦労されている方々に、心からお見舞いを申し上げたいと思っております。またこの間、最前線で奮闘いただいている医療従事者、関係の皆さんには、心から敬意と感謝を申し上げる次第でございます。現在は小康状態ではありますが、7月に入りまして若干クラスターが複数発生して、大変心配をしておりました。昨日現在でご承知のとおり県内の感染者数は777人という数字になっています。

このような状況を受けて今回の補正予算では、「感染拡大の防止」と「社会経済活動の正常化」の両立を推進するための諸施策が盛り込まれ、本会議に提案されたわけでございます。感染の再拡大の状況は、現在小康状態にあります。いつ、どのように感染が拡大するか分かりませんので、今後とも県議会といたしましても、知事・執行部と緊密な連携をとってしっかりと対応をしていきたいというふうに思っています。

次にもう一つ、突然と言えば突然なんです。安倍総理が勇退されて、新しく菅前官房長官が総理になられたということで、菅総理も「地方の活力なくして日本の活性化なし」と明言されておりますので、今後とも一層、地方創生・地方活性化に取り組んでいただけるものと大変期待をしているところでございます。

今議会を振り返って見ますと、先ほども申し上げましたように新型コロナウイルスの感染症対策、また地域経済の復興などを盛り込んだ補正予算の審議を中心に質疑が繰り返され、本日、400億近い補正予算を可決させていただきました。これをもって今後の感染防止とそしてまた地域経済の正常化に向けて、なお一層取り組みを進めていきたいと思っております。

昨日からですか、国のG o T o トラベルに東京が参加することになりまして、私も大変活力を期待しておりますが、同時に今後、新型コロナウイルスの感染状況がどうなるかなという心配もありますし、もう一つ、海外渡航が緩和されたということで海外との交流が盛んになった場合に新型コロナウイルスの感染状況にはいかがかなという心配もしているわけでございます。

今議会の冒頭には、県民の間で新型コロナウイルス感染に対する偏見などを持たないようにと「新型コロナウイルス感染症に係る差別や偏見等の根絶に関する決議」を議決いたしました。その他意見書としまして「医療機関等の経営安定化を図る財政支援の拡充を求める意見書」など6件の意見書を可決することができました。これらの意見書は県議会としてこの後、国会や関係省庁等で要望として提出いたします。

以上、簡単ではございますが、私からの所感といたします。

<質疑応答>

記者

今日の開会前の議会運営委員会で議員の欠席や早退について、安易にやられ過ぎなの

で、そこを注意してほしいという意見がありましたけれども、改めて議長からその点についてどのようにお感じになっているかお聞かせください。

稲村議長

意見が出たとおりだと思っておりますし、議員の本分は議会に最優先で対応するっていうことが当然ですから。ただ、私も詳しくは見ていませんけど、規則にきちんとうたってありますのでね。やはり「けじめ」というものは、しっかりとされた方がいいのではないかと考えております。

記者

ありがとうございました。

以 上